資格試験

登録販売者試験

令和８年度・東京都

全 120 問・479 記述の解説　|　解説集



資格 Hub

第 1.0.0 版　2026 年 10 月 22 日

目次

令和８年度・東京都　120問

医薬品に共通する特性と基本的な知識　20問

問 1 市販後の確認と販売時の情報提供 4
問 2 LD50・無作用量・用量反応関係 5
問 3 GLP・GCP・GPSP・GVP の対象 6
問 4 届出・許可と医薬品との区別 7
問 5 添加物と原材料への注意 8
問 6 適正使用でも生じる副作用と受診 9
問 7 依存・小児への流用・過量服用 10
問 8 代謝の変化と食品との成分重複 11
問 9 乳児の受診と誤飲の防止 12
問 10 65 歳の目安と副作用への配慮 13
問 11 胎盤・乳汁への移行と相談 14
問 12 お薬手帳・基礎疾患・既往症 15
問 13 薬理作用によらない変化 16
問 14 保管条件と未開封の使用期限 17
問 15 一般用医薬品の役割と受診勧奨 18
問 16 使用目的の確認と非言語情報 19
問 17 異性体・胎児移行と回収の遅れ 20
問 18 キノホルムと副作用被害救済制度 21
問 19 血液凝固因子製剤と安全対策 22
問 20 原因製剤と 2008 年の特別措置法 23

人体の働きと医薬品　20問

問 21 消化管の範囲と消化酵素 24
問 22 胆汁・グリコーゲン・尿素 25
問 23 上気道・下気道と肺胞 26
問 24 心房・心室と血管の収縮 27
問 25 抗体・ヘモグロビン・血液凝固 28
問 26 腎臓・副腎と排尿 29
問 27 ビタミン A・虹彩・充血・涙液 30
問 28 鼻中隔と中耳・内耳の区分 31
問 29 表皮・真皮と二種類の汗腺 32
問 30 骨の代謝・靱帯・腱・心筋 33
問 31 溶出部位・初回通過・局所作用 34
問 32 タンパク結合と薬効の上限 35
問 33 軟膏・チュアブル錠・舌下錠・貼付剤 36
問 34 重篤副作用の知識と受診時の情報 37
問 35 肝障害・偽アルドステロン症・好中球減少 38
問 36 眠気・めまい・無菌性髄膜炎 39
問 37 イレウス・潰瘍・不整脈 40
問 38 間質性肺炎と薬による喘息 41
問 39 腎障害・排尿困難・眼圧 42
問 40 接触皮膚炎・光線過敏症・薬疹 43

目次

令和８年度・東京都　120問

薬事に関する法規と制度　20問

問 41　研究開発促進・研修・情報提供 44
問 42　申請先・名簿・変更と消除 45
問 43　14 歳未満・譲受文書・表示・施錠 46
問 44　指定の対象と感染症リスク 47
問 45　第一類・指定第二類・第三類 48
問 46　法第 50 条の記載事項 49
問 47　効能の範囲と販売の許可 50
問 48　栄養成分と表示可能な機能 51
問 49　三種類の許可と配置販売 52
問 50　名称の例外・管理者・地域連携薬局 53
問 51　調剤禁止・店舗管理者・6 年更新 54
問 52　年齢・併用薬・授乳・使用経験 55
問 53　連絡先の記録と相談への応答義務 56
問 54　医薬品の区別と指定第二類の距離 57
問 55　救済制度・個人情報・緊急連絡先 58
問 56　サイトに表示する写真と営業情報 59
問 57　課徴金・広告の三要件・承認前広告 60
問 58　最大級表現・漢方・推薦表示 61
問 59　景品・大量購入・組合せ販売 62
問 60　立入検査・従業員の答弁・回収命令 63

主な医薬品とその作用（一部）　20問

問 61　症状の緩和と不要な成分の回避 64
問 62　葛根湯・半夏厚朴湯・小青竜湯・小柴胡湯 65
問 63　プロスタグランジンと腎血流 66
問 64　アセトアミノフェン・生薬・筋弛緩成分 67
問 65　一時的な不眠と生薬の基原 68
問 66　カフェインの中枢作用と利尿 69
問 67　前庭・嘔吐中枢と各成分 70
問 68　健胃作用・使用期間・ジンコウ 71
問 69　中枢性鎮咳・交感神経・去痰・抗炎症 72
問 70　局所作用と噴射時の呼吸 73
問 71　胃酸抑制・アルミニウム・胃粘膜保護 74
問 72　安中散・六君子湯・瀉下処方 75
問 73　生菌・ゲンノショウコ・タンニン酸ベルベリン 76
問 74　便を軟らかくする成分と刺激性成分 77
問 75　生薬の基原と抗コリン作用 78
問 76　連用・急性腹症・立ちくらみ 79
問 77　センソ・ゴオウ・ロクジョウ・リュウノウ 80
問 78　リポタンパク質とパンテチン 81
問 79　吸収抑制・エステル形成・ビタミン 82
問 80　鉄・ビタミンと補助成分 83

目次

令和８年度・東京都　120問

主な医薬品とその作用（一部）　20問

問 81　生薬の基原・酸化亜鉛・乙字湯 84
問 82　ウワウルシ・キササゲ・漢方処方 85
問 83　冷えを伴いマオウを含む五積散 86
問 84　抗コリン作用と MAO 阻害剤 87
問 85　局所麻酔・遊離抑制・血管収縮 88
問 86　収斂・抗炎症・調節機能・代謝 89
問 87　抗菌・血管収縮・非ステロイド・抗コリンエステラーゼ90
問 88　過酸化水素・ポビドンヨード・フェノール系 91
問 89　ステロイド性と非ステロイド性の区別 92
問 90　タンパク質合成・細胞膜・酸性化 93
問 91　局所麻酔・抗炎症・止血 94
問 92　感染防止・組織修復と受診 95
問 93　ガムの使い方とニコチンパッチ 96
問 94　B12・システイン・オリザノール・コンドロイチン . . 97
問 95　証・処方全体・使用期間 98
問 96　胃腸機能が衰えた人への補中益気湯 99
問 97　タイソウ・サンヤク・サイコ・カッコン 100
問 98　誤使用時の対応と混合の危険 101
問 99　有機リン・ピレスロイド・成長阻害剤 102
問 100　体外診断用・検体の時刻・妊娠検査 103

医薬品の適正使用と安全対策　20問

問 101　改訂・薬効名・使用者への表現 104
問 102　禁忌・相談事項・副作用の順序 105
問 103　3 年の安定性・点眼薬の共用禁止 106
問 104　ライ症候群とアスピリン 107
問 105　テオフィリン・センノシド 108
問 106　芍薬甘草湯・プソイドエフェドリン 109
問 107　小児と妊娠末期の使用制限 110
問 108　ダイオウを含む防風通聖散 111
問 109　副作用・漫然使用・妊婦・小児 112
問 110　ジプロフィリンと甲状腺機能障害・てんかん 113
問 111　スコポラミンとロートエキス 114
問 112　イエローレターと電子的な伝達 115
問 113　WHO 制度・再審査・健康危機管理 116
問 114　既知・未知・感染症・海外措置 117
問 115　PMDA・厚生労働大臣・薬事審議会 118
問 116　購入経路・把握可能な情報・代表報告 119
問 117　障害年金・遺族年金・医療手当 120
問 118　販売証明と制度の対象外 121
問 119　PPA・小柴胡湯・かぜ薬 122
問 120　薬と健康の週間・乱用防止 123

問 2

令和８年度・東京都　医薬品に共通する特性と基本的な知識　リスク評価

LD50・無作用量・用量反応関係

公式午前 PDF・問２（4 ページ）

正答

4

判定の軸

リスク評価

正答の理由

正答は 4 です。d が正しく、a〜c は用語の意味や少量投与の危険性を取り違えています。

各記述・各肢の判断

a

誤り。LD50 は動物実験で求める 50 %致死量です。試験動物の半数が死亡する量を毒性の指標とするもので、50 %中毒量ではありません。

b

誤り。投与量が少なくても、発がん作用や胎児毒性、臓器障害が生じる場合があります。反復・長期投与による慢性毒性にも注意が必要です。

c

誤り。無作用量は、効果の発現が検出されない量です。効果があり有害反応が現れない用量を指す記述とは一致しません。

d

正しい。投与量を増やしたときに効果と毒性がどう変わるかという用量反応関係に基づき、有効な用量とリスクを評価します。

根拠資料

厚生労働省手引き（令和８年４月）
厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和８年４月）」第 1 章、PDF 通し 10 ページ。

問 51

令和８年度・東京都　薬事に関する法規と制度　店舗販売業

調剤禁止・店舗管理者・６年更新

公式午前 PDF・問 51（38 ページ）

正答	判定の軸
1	店舗販売業

正答の理由　正答は 1 です。a、b が正しく、c の経験年数と d の許可更新期間が誤りです。

各記述・各肢の判断

a　正しい。店舗販売業は薬局とは異なり、薬剤師がいても調剤を行えません。従事者の資格だけで営業の許可範囲が広がるわけではありません。

b　正しい。法第 29 条は店舗管理者に、他の従事者の監督など、保健衛生上の支障を防ぐための注意を求めています。販売者への意見も書面で述べます。

c　誤り。第一類を扱う店舗の例外的な管理者は、所定の第一類等の販売体制で登録販売者として 3 年以上の経験などが必要です。2 年以上・1,920 時間だけでは足りず、補佐する薬剤師も必要です。

d　誤り。販売業の許可は 6 年ごとに更新が必要です。5 年ではありません。更新しなければ期間経過で効力を失います。

根拠資料

厚生労働省手引き（令和 8 年 4 月）
厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和 8 年 4 月）」第 4 章、PDF 通し 234・237・238・239 ページ。

問 117

令和８年度・東京都　医薬品の適正使用と安全対策　副作用被害救済の給付

障害年金・遺族年金・医療手当

公式午後 PDF・問 117（43 ページ）

正答

4

判定の軸

副作用被害救済の給付

正答の理由

正答は 4 です。a、c が正しい記述です。18 歳未満は障害児養育年金の対象で、d は医療費の説明です。

各記述・各肢の判断

a

正しい。給付には医療費・医療手当・障害年金などの七種類があり、給付ごとに請求期限の有無や条件が異なります。期限を過ぎた分は請求できない場合があります。

b

誤り。障害年金は 18 歳以上の一定の障害状態の人への生活補償などの給付です。18 歳未満については障害児養育年金と区別します。

c

正しい。生計維持者が副作用で死亡したときの遺族年金は、遺族の生活の立て直しなどを目的とし、給付期間は最高 10 年です。

d

誤り。治療に要した費用を実費補償するのは医療費です。医療手当は、入院治療を必要とする程度の療養に伴う医療費以外の費用の負担に着目した給付です。

根拠資料

厚生労働省手引き（令和８年４月）
厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和８年４月）」第５章、PDF 通し 404・405・406 ページ。